

JA全農ウィークリー

2面

ファミリーマートとの一体店舗 東北初、山形市内にオープン

2面

輸出に取り組む優良事業者表彰 鳥取県本部に農水大臣賞



輸出に取り組む優良事業者表彰で農水大臣賞を受けた鳥取県本部(2面)



全農アンテナショップ「いちごいちえ」が提供する食材で料理した食事会(7面)



全国で2店舗目となる農畜産物販売店とファミリーマートの一体店舗「ファミリーマート+全農ふれあい広場もとさわ店」(2面)

- 3 ニュース&トピックス(秋田県本部、神奈川県本部)
- 4 JAズームイン(JAあきた北)
- 5 県本部だより(京都府本部)
- 6 ニュース&トピックス(園芸部、山梨県本部)
- 7 特集・いちごいちえの取り組み(総合企画部)
- 8 コミュニケーション(新潟県本部、JAタウン)



このキャラクターの詳細は紙面のどこかに...



News!



ファミリーマート+全農ふれあい広場もとさわ店開店

東北初、県産農畜産物で人と地域をつなぐ

山形県本部



降りしきる雪の中、開店を祝ってあいさつする長澤会長

同店舗は、全農と株ファミリーマートが締結した「Aコープ包括業務提携契約」に基づき開店したもので、通常のコンビニエンスストア商品に加え、農畜産物販売や全農ブランド・エコーコープ商品、農作業用品を多数陳列し、イートインスペース20席も兼ね備えた、東北・山形県で初の店舗です。通常のコンビニと同様に年中無休・24時間営業で、地域の方がふれあい、交流を深める場所を目指します。

オープニングイベントでは、開店を祝って山形県本部の長澤豊運営委員会会長が「ファミリーマート+全農は、全国で2店舗目。全農の事業で地域の生活を支え、県産農畜産物で人と地域をつなぎ、新しい社会への貢献を増進してまいります」とあいさつしました。17日と18日に先着100人限定で、午前10時から紅白まんじゅうのプレゼントや午後2時から寒鰯汁の振る舞いを実施。さらにオープン記念価格で農畜産物を販売し、多くの方が行列をつくるにぎわいを見せました。当日は、隣接する本沢コミュニティセンターで山形県出身の歌手「朝倉さや」のミニコンサートも開かれ、大いに盛り上がりました。



初日から大勢の人でにぎわう店内

News!



輸出に取り組む優良事業者表彰で農水大臣賞

さらに拡大目指し農家所得向上へ

鳥取県本部

鳥取県本部は、農水省が主催する「輸出に取り組む優良事業者表彰」で農水大臣賞を受賞。2月2日に東京都内で表彰式が開かれ、尾崎博章県本部長が出席しました。表彰は農林水産物・食品輸出の優良な取り組みを広く紹介し、輸出を促進することを目的に農水省が実施しています。

鳥取県本部は1933年から二十世紀梨の輸出を開始し、富有柿についても全国に先駆けタイへ30年以上にわたり輸出しています。

また、二十世紀梨の輸出ルートを活用し、台湾、香港、中国、米国などへスイカ、野菜、和牛など取扱品目の輸

出拡大をしていることが評価されました。栗原隆政鳥取県本部運営委員会会長と尾崎県本部長は2月6日、鳥取県庁を訪問し平井伸治県知事に受賞を報告しました。

栗原会長は「生産者や先人の努力が認められた。歴史ある鳥取の輸出事業が認められて光栄。さらなる輸出拡大を目指し、農家所得の向上に貢献したい」と喜びを語りました。



谷合正明農水副大臣から農水大臣賞を受ける尾崎県本部長④



平井知事⑤に大臣賞受賞を報告する左から栗原運営委員会会長、尾崎県本部長、増田卓也園芸部長



JA農機担当者延べ40人と11JAを表彰

平成29年JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会

秋田県本部



製品成約受注部門最優秀賞の
細井さん(JA秋田おぼこ)



修理整備料金部門最優秀賞の
三浦さん(JAこまち)

表彰式では、最優秀賞のJA秋田おぼこの細井辰己さん、JAこまちの三浦伸さんをはじめ、各メーカー表彰や県本部表彰、農技委員会表彰など、延べ40人と11JAを表彰したほか、長年の功績をたたえ今年度末に退職される7人の担当者に功労賞を贈りました。

全農生産資材部の富田健司次長は、JAグループ自己改革を基に進めている「JAグループ・生産資材価格引き下げの取り組み―農機事業―」について説明。その後、秋田県JA農機技術指導員委員会の加藤仁委員長をはじめ委員全員でJAグループ自己改革の決意表明を行いました。

秋田県JA農機技術指導員委員会(事務局JA秋田県本部)は1月27日、秋田市で平成29年JA農業機械パワーアップ運動成果発表大会を開き、JAや系統農機メーカーの担当者ら約250人が参加しました。大会は、農家訪問活動を積極的に展開し、農家組合員との絆を深め、優れた成果を収めたJA農機担当者を表彰し、栄誉をたたえるため開いており、今年で17回目です。



TAC9人が取り組み事例発表

JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会

神奈川県本部



入念なプレゼン練習を行い事例発表に臨んだTAC担当者ら

来賓にJA神奈川県青協と神奈川県女性協の役員を迎え、県内JAのTAC担当部署などから役員らら約130人が集まりました。9JAのTAC担当者が、訪問活動の成果や今後の展望など取り組み事例を発表しました。各JAのTAC担当課長や県中央会、全農などの13人が審査し、3人が「TAC表彰」を受けました。

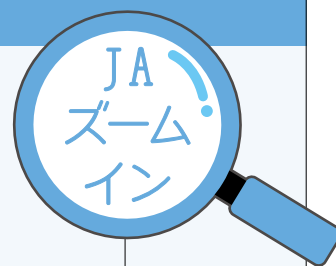
TAC・担い手訪問活動の優良事例をJA間で共有し、県内TAC活動の活性化を図るため、神奈川県本部は1月19日、横浜市内で「JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会」を開きました。

「TAC表彰」受賞者と発表概要

JAさがみ・ 宮治直斗氏	JAかながわ西湘・ 武松保典氏	JAよこすか葉山・ 斉藤誠氏
新品種「茅ヶ崎の 白いなす」の若手農 家を巻き込んだ生産 振興と、市場や広報 と連携した販売促進	「開成弥一芋(里 芋)」の生産拡大に向 けた生産農家数増と 生産振興、価格交渉 など販売支援	重量野菜に代えア スパラガス栽培提案 で担い手の負担軽 減。若手も巻き込み 不耕作地解消と地域 活性化へ

積極的な訪問活動による課題把握と解決策提案で、多くの生産者を巻き込み成果を出したことや、TAC活動の参考となる将来性や発展性が高く評価されました。

神奈川県本部は、県内TAC担当者のレベルアップやTAC活動の活性化に向け、今後も研修開催や情報提供などで支援していきます。



伝統野菜の「大館とんぶり」

G-登録追い風に生産振興

JAあきた北管内では、主力の米のほか、エダマメやアスパラガス、ヤマノイモ（つくね芋）なども盛んに栽培され、大館市比内町は、日本三大美味鶏のひとつ「比内地鶏」の産地としても知られています。また、伝統野菜「大館とんぶり」は畑のキャビアともいわれ、県内外に

多くのファンを持つ逸品です。

**秘伝の技術伝授へ
農家の了承で道開く**

とんぶりは、アカザ科ホウキギ（ホウキグサ）の成熟果実が原料で、加熱加工したものの名称で、大館市一帯は古くから食用としていました。

とんぶりの収穫作業

とんぶりは加工が難しいことなどから、他地域では普及せず、国内でとんぶりを継続して生産・出荷している産地は大館市だけといわれ、「大館とんぶり」は「秋田の特産品」として広く知られています。種子や栽培方法、



伝統野菜「大館とんぶり」

加工技術は、江戸時代から親から子、子から孫へ伝承という風習があり、新規参入は極めて難しい状況でした。また、マイナーな産品ゆえに需要が不安定なため、中国産原料使用の販売者と低価格で競合せざるをえず、農家の手取りも減少。最盛期の平成2年に栽培戸数139戸、栽培面積95畝に拡大しましたが、その後は減少の一途をたどり、現在では10戸の農家が20畝で栽培しています。

JAあきた北（秋田県）



培しています。

今後、安定的な生産・販売を続けるためには、新たな生産者を確保していく必要があり、「大館とんぶり」を後世に伝え残していくために、JAは生産者と何

度も協議を重ね、その秘伝の技術を新たな生産者に伝授することを了承していた。JAとしても安定した所得が確保できるよう、精いっぱい支援と努力することを約束しました。

県内初のG-登録 全国区のブランドへ

平成29年5月に、「大館とんぶり」は第32号の地理的表示保護制度（G-）の登録産品となり、秋田県では初の認証となりました。



とんぶりの瓶詰め

JAではこの登録を機に、全国区のブランドとして育て上げ、「大館とんぶり」の生産振興と、地域の複合経営の太い柱の一つとなることを期待しています。

そのためには、消費者へのさらなるG-制度の周知が望まれるところであり、JAとしても「大館とんぶり」のブランド力強化に地域・生産者とともに取り組んでいきたいと考えています。



とんぶりの真空パック

概要	平成29年3月31日現在
正組合員数	4741人
准組合員数	3630人
職員数	202人
販売品取扱高	38億7千万円
購買品取扱高	20億7千万円
貯金残高	375億9千万円
長期共済保有高	1640億4千万円
主な農畜産物	米、ヤマノイモ、アスパラガス、エダマメ、とんぶり



京野菜の「万願寺甘とう」 全農として初のGI登録

知的財産保護と活用推進

して初めて、また近畿地方の野菜としても初めて、京野菜の「万願寺甘とう」が登録されました。

GIは地域の特性を生かして生産され、高い品質と評価を得た産品を、国が知的財産として登録・保護する制度で、登録することにより、国の「お墨付き」を得た商品としてGIマークの使用が認められます。これにより、生産者の利益増進や消費者の利益保護が図られます。

府内農畜産物の 利益増進へまい進

「万願寺甘とう」

は、辛み成分のない甘味種トウガラシです。ピーマンのような肉厚な果肉で、大型果ですが果肉は柔らかく、丸ごと食べられます。肩部のくびれとやや湾曲した果形が特徴です。

舞鶴市万願寺地区で「伏見とうがらし」が自然交雑

して誕生した「万願寺甘とう」の在来種を基に、京都府が「京都万願寺2号」を育成しました。種子の採種など品種の維持については、生産地の生産者部会と地元JAによって管理されています。

京都府本部では、これからも知的財産の保護と活用を進め、京都府内農畜産物の利益増進に努めていきます。

問い合わせ先…京都府本部農畜産部園芸課 電話 075(311)8218



GIに登録された「万願寺甘とう」

東京・霞が関の農水省で磯崎陽輔農水副大臣㊦から「万願寺甘とう」のGI登録証を受けた宅間敏廣本部長㊦らとGIマーク

京都府本部は、1200年以上の歴史と伝統の中で培った京都の食文化を守り発展させるため、京都産農畜産物の生産・販売力を高める取り組みに加えて、知的財産の保護に取り組んでいます。

京の伝統野菜は、和銅4(711)年から栽培されているものもあるほど歴史が古く、また食味や形状にも特徴のあるものが多いことから、認知度向上と生産振興を目的に、知的財産の積極な活用に力を注いでいます。

国から「お墨付き」マーク付きで店頭へ

農水省が定めた地域の特産品を保護する地理的表示保護制度(GI)に、全農と

News!



いちご主産9県が今年も販促イベント

楽しみにしている来場者も多く盛況

園芸部



いちご主産県が自慢の品種を並べた販促イベント

「ゆづべに」の8種のうち4種を組み合わせた「いちご食べ比べアソートケース」を1500円で販売しました。会場には試食コーナーも設置し、消費者の方に食べ比べをしてもらいました。

当日は、販売開始から多くの人でにぎわい、品種間の食味の違いを楽しんだり、気に入った品種を買って帰られるなど、盛況のうちに終了しました。

交通会館での開催は今年で5年目となり、このイベントを毎年楽しみにしているお客さまも多く、中には「いろいろな品種を一度に食べられるのはうれしい」などの声もあり、国産いちごのPRと消費の拡大につながることができました。

いちご主産県情報交換会では、国産いちごが潤沢に出回る時期に合わせ、9県合同でいちごの販促イベントを実施しています。今年も前年に引き続き東京交通会館で開きました。

各県を代表する「とちおとめ」「もういっこ」「いばらキッス」「紅ほっぺ」「あまおう」「さがほのか」「ゆめのか」

宮城・茨城・栃木・静岡・愛知・福岡・佐賀・長崎・熊本
の9県連・県本部からなるいちご主産県情報交換会は2月10日、東京・有楽町の東京交通会館でいちごの販促イベントを実施しました。

News!



山梨県JA鳴沢村が40回目の野菜冬期講座

効果的な防除や直売所情勢などを報告

山梨県本部

キャベツの防除試験結果について説明する山梨県本部の営農販売部古屋職員



参加した生産者らは、来年度の収穫に向けて熱心にメモを取っていました。

山梨県本部は、この講座を通じて生産者に的確な防除と安全・安心な農作物の生産のための情報発信を行い、地域農業の活性化に繋げるようJAと協力していきます。

この講座は、生産者の新たな技術の情報共有や知識の習得などを目的に毎年開かれており、今年で40回目を迎えました。

当日は山梨県本部の営農部門から、JA鳴沢村の主要農産物となっているキャベツの防除効果試験や品種選抜試験の結果、正しく効果的な農薬の使用方法などを説明しました。また直販事業部門から「近年の直売所情勢について」、購買部門からは「肥料の銘柄集約」について説明しました。このほか県病害虫防除所、肥料・農薬メーカーや流通関係者など多数の講師を迎え、多岐にわたり説明しました。

山梨県のJA鳴沢村は2月8日、鳴沢村総合センターで「野菜冬期講座」を開きました。山梨県本部職員が講師として参加し、会場には生産者約70人が出席しました。



マルシェ部員全員で料理した食事会



全農アンテナショップ「いちごいちえ」 東京・大手町周辺レストランや 就業者と連携した企画が好評

東京・大手町カンファレンスセンター地下1階の全農アンテナショップ「いちごいちえ」は、ショップコンセプトの「大手町にいながらにして、四季折々の農業・農村とであう場所」を実践するため、昨年5月のオープン以来、大手町周辺のレストランや就業者と連携し、さまざまな企画に取り組んでいます。

【総合企画部】

JAビル周辺レストランと タイアップメニュー

いちごいちえで取り扱う旬の青果物をテーマ食材とした、JAビル周辺レストランとの期間限定タイアップメニューの開発です。いちごいちえ隣接の全農直営フレンチレストラン「ラ・カンパニー」などタイアップ先レストランのシェフからは「定番メニュー以外の限定メニューはお客さまへの話題提供にもなるし、テーマ食材をどう料理するか、シェフの腕の見せどころ」と好評です。

青パパイヤを調理するマルシェ部員



消費者からも「旬の食材を食べることで季節を感じられる。料理に使われた食材をいちごいちえですぐに買えるの

もうれしい」と大人気の企画となっています。

大丸有エリア就業者と 連携「大丸有マルシェ部」

「食」と「農」に関心のある大丸有エリア（大手町・丸の内・有楽町エリア）のOLたちで結成された「大丸有マルシェ部」とのコラボです。いちごいちえが



JA紀の里産ハッサクの試食を勧めるマルシェ部員

し、その農産物への愛着も生まれる」と好評です。また、マルシェ部員による店頭販売支援も募集しており、先日開催した和歌山フェアでは、JA紀の里産キウイフルーツ、ハッサクを笑顔で試食販売していただきました。「売り手に立つことで産地側の思いも実感できる企画」として、産地と消費者の交流促進の一助となっています。



SNSで情報発信



レストランタイアップメニューのポスター

浅田真央さん起用の新潟米コシヒカリCM 新潟広告賞のグランプリを受賞

CM内容



♪新潟に来ました～



♪わたし
ごはんが好きすぎて～



《農家のおじさん》
よう来たね～



《浅田さんNA》
お米が大好きな私に、
新しいふるさとができました。



《浅田さんNA》
新潟米コシヒカリ

新潟県内で制作された優れた広告に贈られる「第59回新潟県広告賞」(新潟県広告協会主催)で、浅田真央さんを起用した新潟米コシヒカリCM「新潟へ来ました篇 60秒」が最高賞のグランプリに選ばれました。【新潟県本部】



平成29年産新潟米
コシヒカリポスター

CMのロケが行われたのは、昨年8月の終わり。夏の終わりとは思えないほどの炎天下の中、撮影は2日間にわたり早朝から日没まで行われました。そんなハードなロケにもかかわらず、浅田さんは疲れた顔を決して見せず、いくつものシーンを最後まで笑顔で絶やさず演技してくれました。

ごはんの食べっぷりの良さも印象的で、おいしそうに大きく口をあけて何度もおむすびを笑顔で

頬張る様子は、新潟米コシヒカリのこれ以上ないPRになりました。

新潟県本部は、これからも消費者に楽しんでいただけるコマーシャルを制作し、県産農畜産物の消費拡大に取り組みます。

CMは新潟県本部ホームページで
ご覧になれます。

新潟米コシヒカリCMはこちらから.....



JAタウン |

検索

クリック

広島とれたて元気市 (広島県本部)



JAタウンは
こちらから



紅はっさく(5*、Lまたは2Lサイズ).....3480円

ご紹介する「紅はっさく」は、100年以上の歴史がある広島のかんまです。
「はっさく」は江戸時代末期に尾道市因島田熊町(旧因島市)の浄土寺で発見されたのを契機に広島県内で栽培が始まりました。

清涼感たっぷりの酸味と爽やかなほろ苦さから、現在でも幅広い年齢層に根強いファンが多く、シーズン中(1~3月)には全国の市場に向けて出荷しています。

外皮はナイフで果実上部と下部をカットすると簡単にむけ、薄皮も上端部をカットすると簡単に皮離れます。

ぜひ一度、広島が誇る歴史ある甘酸っぱい「紅はっさく」をお楽しみください。

なお、ご紹介した商品は、3/16(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金の他、送料がかかります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。